

第6学年外国語学習指導案

場 所 6-1 教室
指導者 教諭

1 単元名 道案内をしよう Where is ~? Turn right / left. Go straight. Stop.

2 単元について

(1) 児童観

省略

(2) 教材観

本単元では「Where is the ~?」を会話の主な使用表現としている。「Where is the ~?」は場所を尋ねるときに使う表現である。道案内をする活動をとおして、道を尋ねたり、案内したりする表現に慣れ親しませる。単元の最後には修学旅行で訪れる鎌倉の地図を使って、自分たちが行く寺院や施設の行き方を表現させることで、生活の中でも使えることを実感させたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、単元全体をとおして体を動かす活動を多く取り入れ、使用表現に慣れ親しませていく。単元後半にはプログラミング教育を取り入れ、くり返し発音させることで慣れ親しませたい。

本時では、ロボット役の児童をできる限り少ない指示で目的地へ誘導させる活動を行う。表現に慣れ親しむだけでなく、指示を聞いて動いたり、間違えに気づいたりできるように取り組ませていく。

3 プログラミング教育について

(1) 身に付けさせたい力

小学校学習指導要領及び、プログラミング教育の手引において次のように位置づけられている。

第1章 総則

第3 教育課程の実施と学習評価

1 (3) イ 児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身につけるための学習活動

プログラミング教育の手引

① 「プログラミング的思考」を育むこと

② プログラムの働きやよさ、今の社会が情報技術で支えられていることに気づくとともに、コンピュータを上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育てること

③ 各教科等での学びをより確実なものにすること

本単元での1番のねらいは③である。プログラミング活動をとおしてくり返し発音させることによって、定着を図りたい。また、指示する回数をできるだけ少なくする活動をとおしてプログラミング的思考も育んでいきたい。

(2) 教科等横断的な指導について

アンプラグドのプログラミングについては、これまでに様々な教科において、フローチャートを活用して思考を整理する活動を行ってきた。国語では取材する相手の反応によって、どのように答えたらいいのかをまとめた。総合的な学習の時間には、調べていく内容を整理するために活用した。理科では水よう液を識別する過程をフローチャートでまとめ、発表することができた。

また、パソコンを使ったプログラミング教育については、第5学年「多角形と円」の学習において、プログラムを使ってプログラミングの体験をしている。また、第6学年総合的な学習の時間において、Scratchを使い、図形を作図したり、イラストを動かしたりする方法を学んでいる。

4 単元の目標

(1) 英語で方向や動きを指示する表現を用いて道案内をしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 英語で目的地へ案内をする表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

(3) 英語でこれは何かを尋ねる言い方に気付く。

【言語や文化に関する気付き】



5 単元計画

	◎めあて ・主な活動内容	◆各時間終了後の児童の姿 使用表現・語彙	コ	慣	気
1	◎場所や建物の名前の知ろう。 ・えいごリアンを視聴する。 ・ALT とやりとりをしながら建物の名前を入れ替えて、ロールプレイをくり返し練習する。 ・これ何？クイズ	◆場所や建物の名前について、興味をもって聞き、理解している。 What' s this? It' s ~. park / school / bookstore / police station/ train station / hospital / supermarket etc.			○
2	◎「人間ロボット」を目的地まで誘導しよう。 ・ジェスチャーを交えてくり返し発音する。 ・バルーンヒットゲーム	◆場所を尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 ◆方向や動きを指示する表現を用いて、道案内をしている。 A: Where is the ()? B: From the (). Go straight. Turn left. Go straight. Stop. It' s here.	○	○	
3 本 時	◎「人間ロボット」をできるだけ少ない指示で目的地まで誘導しよう。 ・ジェスチャーを交えてくり返し発音する。 ・少ない指示カードでロボット役の児童を誘導する。	◆方向や動きを指示する表現に慣れ親しんでいる。 A: Where is the ()? B: From the (). Go straight. Turn left. Go straight. Stop. It' s here.		○	
4	◎鎌倉を道案内しよう。 ・実際に行く寺院や駅の行き方を確認し発表する。	◆目的地への行き方や案内をする表現に慣れ親しんでいる。 A: Where is the ()? B: From the (). Go straight. Turn left. Go straight. Stop. It' s here.		○	

6 本時の学習指導（本時3 / 4時）

- (1) 本時の目標
方向や動きを指示する表現を使って、道案内をする。
- (2) 展開

活動内容	児童の活動	ティームティーチング		◆指導上の留意点 ◆評価
		HRT の活動	ALT の活動	
1 Greetings	・ALT に挨拶をする。	・児童と一緒にALT に挨拶をする。	・児童に挨拶をする。	・挨拶全体で行う。その際、相手の目を見てできるように指示する。 ・「How are you?」の問いは、日常会話ではなく授業での挨拶であるため、「I' m fine.」と答えさせる。 ・児童同士の関わり合いを増やすため、English Kids に名札を配布させ、「Here you are.」などの日常表現を活用させる。
	S: Good morning. A: Good morning. How are you today? S: I' m fine, thank you, and you? A: I' m fine, thank you.			
2 Warm-up	・これ何？クイズをする。	・ゲームをスタートさせる。 ・声を出すのが苦手な児童と一緒に活動する。	・児童と一緒にナンバーゲームに参加する。	・楽しい雰囲気をつくるために、ゲームを行う。
	【これ何？クイズ】 ①市内の施設や建物の写真を見せる。 ②ALT が What' s this? で尋ね、児童は It' s a ~. で答える。			

<p>3 Today's expressions</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒にめあてを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてを提示し、どうすれば少ない指示でロボット役の児童を目的地に案内することができるかと問いかけ、本時の使用表現の導入につなげる HRT と ALT とのやり取りの中から案内の仕方を確認させる。 Activity で使うカードと関連させながら案内の仕方を確認する。 <div style="text-align: center;">   </div> <p>Go straight Turn right</p>
<p>「人間ロボット」をできるだけ少ない指示で目的地まで誘導しよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> HRT と ALT の会話を聞いて、本時で使う表現を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT と会話して本時の表現を児童に聞かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> HRT と会話して本時の表現を児童に聞かせる。
<p>A: Where is the (train station) ? B: From the (school). Go straight. Turn right. Go straight. Stop. It's here.</p>				
<p>4 Practice</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指示に従って模型を動かしながら、くり返し発音する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の表情や口の開け方を見て、繰り返し練習が必要か判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用表現を正しく発音する。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用表現を繰り返し言わせるために、カードを変えながら模範を示していく。
<p>5 Activity</p>	<ul style="list-style-type: none"> 班で目的地までの案内の仕方を考える。 (プログラミング活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の仕方がわからない児童を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しく発音できているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示カードはワークシート上に並べさせる。 ロボット役の児童には必ず英語で指示を送るようにさせる。 指示カードは全部で5種類用意しておく。 <ul style="list-style-type: none"> Go straight turn right turn left Repeat □ times Stop より少ない回数で誘導できた班に発表させる。 ◆方向や動きを指示する表現に慣れ親しんでいる。
<p>【人間ロボットを少ない指示で目的地まで誘導しよう】 (準備) ワークシート (リモコン)、指示カード、目的地カード (A4 サイズ)、5×5マス(マス目の大きさは人が入れるくらいのもの) (活動) ①班の中で、ロボット役とオペレーション役を決める。 ②オペレーション役の児童はできるだけ少ない指示で目的地に到着するように指示カードを並べる。 ③ロボット役の児童は指示どおりに進む。 ④目的地へたどり着いたら指示カード何枚でたどり着いたかを黒板に書く。指示カードを減らせそうならば再度挑戦してみる。 ⑤役割を変えて、別の場所に案内をする。</p>				
<p>6 Follow up time</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動を振り返りカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視により評価カードへの記入内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> たくさん英語を使っていた児童を称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達的生活の様子があったことやもっと友達のことを知りたいなどとカードに書いた児童を称賛する。
<p>7 Closing</p>	<ul style="list-style-type: none"> ALT に挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒にALT に挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく挨拶できるよう、ALT の目を見て笑顔ではっきりと言葉に出して挨拶させる。
<p>S: Thank you very much. A: You're welcome. See you. S: See you.</p>				

